

学校点描^{プラス}+

明日は前期の終業式です。令和4年度の半分を過ぎようとしています。生徒個々の能力の伸長も道半ばです。

《K中学校》

NO.9

R4. 9. 29

担当：校長

9月17日（土）、18日（日）は、地区新人大会が開催されました。台風が来る直前で、気温が上昇した中の大会となりました。結果、北ブロック大会に出場が決まった競技は次のとおりです。卓球競技で男子団体（N・Tさん、S・Rさん、H・Kさん、S・Tさん、S・Yさん、T・Yさん、H・Hさん、N・Rさん）で優勝しました。また男子個人の部では、N・Tさんが優勝、T・Yさんがベスト8、S・Rさんが代表決定戦で勝利し、北ブロック大会出場権を獲得しました。ソフトテニス競技で女子団体が第3位（代表決定戦で勝利）となり、北ブロック大会出場権を獲得しました。バレーボール競技は、決勝トーナメントで優勝チームとあたり敗退、代表決定戦に進みましたが、惜しくも出場権獲得とはなりませんでした。

26日から三者面談を全学級で行っています。教師にとっても、面談前までにいろいろ準備をしてのぞみますので、ストレスフルな仕事です。子どもからのみの情報で学校生活をイメージするのではなく、第三者からの目でわが子の様子を正確に知ることはとても重要です。それがたとえ耳障りな話でもです。

反抗と食事と

朝、玄関に立っていると、足を重そうに引きずって歩いてくる、そんな生徒がいます。

ある生徒は「だるい、だるい」と言い、ある生徒は、「おはよう！」という声にも、うなずくのがやっとなんデズね。一人の生徒に「どうしたの？」って聞いてみます。

「朝、辛くって。起きれません」と答えました。

「昨日、何時に寝たの？」って、わたし聞いてみたら、

「10時ぐらいがな？」と答えました。

「朝ごはんは？」と聞くと、

「ほとんど、食べません。朝、起きても誰もいないし」っと。

決して、睡眠不足ではないようですね。それでも“気分悪い”“むしゃくしゃする”“呼びかけに無視する”“こんな状態の生徒が見受けられるんですね。どうしてなのでしょう？”

【反抗期！？】そんな、大ざっぱなことで、この原因をわかったつもりになって良いのでしょうか？わたしは、疑問に感じるんです。

今年からK小学校と中学校は、コミュニティクールになりました。何が変わったかは見た目ではわかりません。学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能になる仕組みをいいます。だから、住民代表の方々と学校や教育委員会が一緒になって現状を話し合う機会がつけられました。その一つとして、9月12日は『コンソーシアム運営協議会』という会議が夕方から開催されました。小グループに分かれて、『地域と子育ての関わり』をテーマにざっくばらんに意見を出し合います。「最近はいいさつがなかなかできなくなったなあ」と同じグループの方が付箋紙に書いています。

地域の方にも、朝から元気のない小中学生の姿を心配している人がいることを知りました。

数年前、体を崩してから、食事が与える精神構造について、自分なりに興味をもって勉強していました。最初は、「食事ぐらいで人は変わるか？」なんて思ったものなんですけど。本当に変わるんですね。

『食原性症候群』を著した大沢博氏によると、犯罪を犯して少年院に入っている子どもたちの、入所前の食事には一定の傾向が認められるそうです。大沢氏が聞き取り調査をした彼らの食事内容は、以下の通りです。

まず、朝食はほとんどの子が食べていません。昼食は、給食を除けばカップラーメン、甘い菓子パン、ハンバーガーなど。そして、間食として、清涼飲料や炭酸飲料、アイスクリーム、スナック菓子を大量に飲んだり食べたりしています。夕食は、焼き肉、ハンバーグなどのメニューが多く、野菜はほとんど食べていません。

問題なのは、これらの食事傾向が、非行少年と呼ばれる子どもたちだけに限ったことではないということです。非行を犯した子どもたちは、このような食事を、それこそ毎日のように続けていたというだけの違いで、多かれ少なかれ、いまの子どもたちも、こうした食生活にどっぷりと浸っているといっても過言ではありません。

これらの食事に共通していることは、肉や糖質（ご飯やパン、めん類、砂糖）が多く、野菜が極端に少ないということです。栄養素でいうとカルシウムやビタミンB1が不足していますし、砂糖のとりすぎが目立ちます。そして、これらの要素には、いずれも精神に大きな影響を及ぼすという共通項があります。

中学生の生活リズムの崩れ。朝の元気のなさ。無気力状態。これらは、食事もひとつの原因かもしれません。食べ物に気を配るのは、子どもの健全なこころの成長をサポートしていることにつながります。

次の朝、学校入り口前に立っていると、普段“だるそう”に歩いている生徒がわたしに、にこにこ顔で走ってきます。

「校長先生！おはようございます！今日、朝ごはん食べてきました！」って。

一度や二度の食事パターンの変化で、こんなに変わることはありえません。

その生徒は、久しぶりに親といっしょに朝食を食べたことで、気分があがったのです。

最後はやっぱり、理論じゃなく、家族の親密さを感じる触れ合いなのです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。